

未来へはばたけ



令和7年9月1日
おおたかの森小学校
学校便り 9月号

子ども達の「やってみよう！」をパワーアップしていける9月に

校長 北野 美紀

夏休み前、全校児童に「本を7冊読む！」と宣言し、読んだ本の中で、心理学者であるエリクソンの考えが印象に残ったので、ご紹介します。エリクソンが提唱した発達段階理論によると、学童期（6歳～13歳）の発達課題は、「勤勉性」を育む事です。この時期は、様々な課題に積極的に挑戦し、努力が成果に結びつく経験を重ねることで、「自分にはできる」という「有能感」を育むことができます。しかし、大人（親や教師など）から失敗に対する否定的なフィードバックを受け続けると、「劣等感」を生み、これが根付くと子ども達は自己評価が低くなり、挑戦する意欲を失います。

また、大切なのは、結果だけではなく過程を認め、努力を励ます関わりを続けることだと書かれていました。そして、エリクソンは、各段階での課題を克服することで、次の課題に進む土台が築かれ、健全な人格形成につながると言っています。そのため、各発達段階において必要なステップを飛ばして、（例えば、乳幼児期には「基本的信頼」という愛着形成が重要なのですが、この時期に周囲の人との信頼関係を構築するステップを飛ばして）他のことに力を入れると、何らかのエラーが起こるそうです。つまり、学童期に必要な「勤勉性」を獲得していくためには、その前段階の「基本的信頼」「自律」「自発」の課題が大切になります。ご興味のある方は、「エリクソンの発達段階」と検索していただくと、どんな力でどのように育まれていくのかがわかります。各家庭での、これまでのお子さまの様子はいかがでしょうか。

学校では今後とも、ありのままの自分を大切にしながら、互いの気持ちを考えられる児童の育成、学級や学年等の友だちとの関わりを大切にしたい学び、子ども達の好奇心を大切に「やってみよう！」の経験を積めるよう支援していきます。

☆夏休みまでの振り返り☆

○カーテン洗濯ボランティアの皆様、本当にありがとうございました。

「学校のカーテンって、特殊なサイズで中々洗濯できないんですね。」のつぶやきを聞き取ってくださった、PTA本部の方が早速動いてくれました。そして、お忙しい中、ボランティアに参加してくださった保護者の皆様、ありがとうございました。おかげさまで、埃や汚れがなくなったきれいなカーテンで、9月がスタートできます。

○6年生主催の夏祭り、大成功！1年生から5年生まで、たくさん子ども達が祭り会場を訪れ、射的やヨーヨーすくい、ボーリングなどを楽しみました。6年生の子どもたちは、企画・運営を通し、「働く」ということについて考えを深めました。まさに「生きた学習」ですね。

○4年生は、代表のこどもたちが、ゴーヤの学習の成果発表に7月23日に参加してきました。台本・スライドを全て子ども達が考え作成し、演者もちろん子ども達！「ゴーヤレンジャー」とてもかっこ良かったです。

○吹奏楽部が吹奏楽コンクール出場し、千葉県文化会館の大ホールで素敵な音色を響かせてきました。

○その他にも、ミニバスケットボール部の練習試合実施、代表児童による姉妹都市能登町との交流会への参加、希望者に